

事例Ⅳ

ともしびショップ「マリン」(横須賀市役所庁舎内)

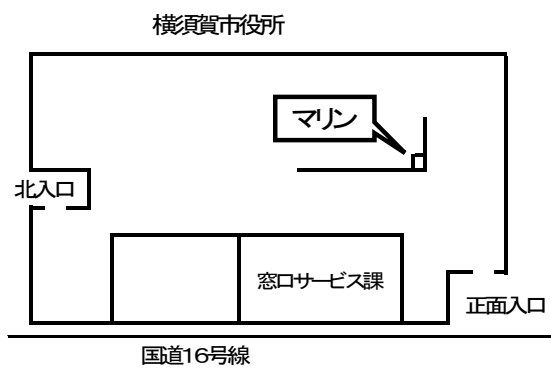
＝グッズコーナーを足がかりに作業所等の業容拡大、
障害者の職域開拓をめざして＝

経過

平成22年5月、ともしびショップ「マリン」を横須賀市役所本庁舎1階の一面にオープンしました。

作業所連絡会では作業所製品の販売と利用者の方たちの「自分たちが作製したものがどのように販売されるのか自分たちの目で確認したい」「自分たちも作業所以外の場所で働きたい」と言う想いを受け、平成20年度から月に2回市庁舎内の販売を始めました。作業所等が輪番で販売当番を行い、成果が出た時に常設店舗の場所提供を市に要望し、願いがかなったものです。

市役所1階の住民票等発行の市民部窓口サービス課に隣接する恵まれた場所。市役所を訪れる多くの市民と日々触れ合いがあり、ショップで活動する障害者や作業所・施設製品の販売を通して障害者理解を深めています。



ともしびショップ「マリン」連絡先：080-2100-2778

効果を挙げる目的を掲げる

- 市役所を利用する市民に、ショップで活動する障害者や製品を通して障害者理解を深める。
- 施設・作業所製品を一堂に展示販売をすることによって、行政や関係機関（横須賀市）の様々な機会において、記念品・啓発物品として活用に繋げる。
- 自治法改正に伴い、福祉施設に行政機関等の役務の発注や工賃水準向上をすすめる窓口としての役割、共同受注の調整機能を担っていく。
- 障害者が活動することにより、市職員の障害者への理解を進めるとともに行政各部署の隠れた職域（障害者ができる仕事）の開発に向けて働きかける。
- 障害当事者・福祉団体・福祉施設・作業所・ボランティア等で運営協議会を立ち上げ、福祉ショップという媒体を通して、障害者の多様な働き方をはじめ、ボランティア体験や、障害者の地域での支え方を考える機会を構築していく。

日々市民との触れ合いを求めて

開設時に一番に大切にしたいことは、一般市民との触れ合いでした。
この想いに市は、「窓口サービス課」に近接した場所の提供をしました。



市役所の中に溶け込んで

住民票などの発行待ちの方々が来店、「〇〇の窓口はどこですか？」と【案内係】のような問いかけや【銀の鈴】のように「今日ここで友人と落ち合うことになっているのよ」と待ち合わせ場所にもなり、市役所の中にすっかり溶け込んでいます。

当番制で販売業務を行う



スタート時は、各作業所の職員といっしょでしたが、現在は障害者とスタッフが毎日朝10時～午後3時業務に励んでいます。4～5名の障害者が交替性で、週に2日ずつ位に販売当番となります。

作業所内で働くことから一歩踏み出してお店でお客さんと会話を交わしながら販売をし、朝の开店準備、商品の展示など徐々に業務に慣れてきました。

障害当事者の意気込み

販売業務に慣れるとともに就労への意欲も高まり、「**スーパーの品だし業務なら自分にも出来るかも**」と企業合同求人説明会に横浜まで出かける方も出ました。

横須賀市障害者雇用奨励金制度

平成22年10月からは、横須賀市障害者雇用奨励金制度の適用を受けました。

*障害者雇用奨励金：

- 対象 知的障害者及び、精神障害者を3か月以上雇用しようとする事業主
- 内容 月額40,000円の奨励金が支給されます。
(国の助成制度の適用がある場合は、支給額が調整されます。)

共同受注窓口として

「マリン」で実物を直に確認できる効果があり、市関連の記念品、啓発品の注文を受ける機会が増えて来ております。今後は共同受注窓口として調整機能を担うこととしています。

◎ 職員の名刺、市の各部局が行事の記念品の発注などありました。

I 組み合わせ商品の開発

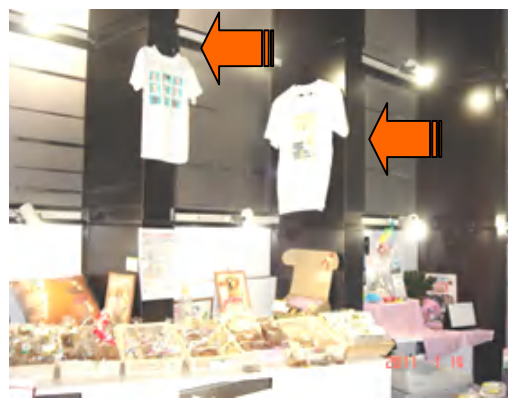
ジャム・クッキー・食べるラー油などの詰め合わせの注文を受付。

II コラボレーション製品

平成23年1月、NPO法人ジョイフルワークと宝塚大学とのコラボTシャツの受注販売が始めました。

NPO法人ジョイフルワークとは、『障害者が他人の援助に頼らずに、自身の生活設計が可能となる様に、収益性の高い、楽しい仕事を作り出し、彼らの自立を支援する』などの理念の基に設立・活動する団体です。

宝塚大学（学生）のコラボレーションチャリティ 作品



このTシャツを見た方・団体から、自らのオリジナルデザインの注文もあります。

ショップ運営協議会の設置

運営については、作業所、施設、障害者団体、ボランティア団体、行政で運営協議会を立ち上げています。運営協議会では、ショップの運営面に留まらず、障害者の多様な働き方やボランティア体験や障害者の地域での支え方についてまで、幅広く意見交換をする場となっています。

まず一歩のための参考

開設資金を考慮！

「マリン」の開設時、(福)神奈川県社会福祉協議会、(財)神川新聞厚生文化事業団、(財)日揮社会福祉財団、(財)日本財団の助成により設備等の準備をしました。
出来る限りお金を掛けよ。

運営費は県障作連のともしび生産振興事業の『施設外生産活動促進事業』助成と横須賀市障害者団体連絡協議会の寄付で当面の運営資金の目途をつけました。

*** 施設外生産活動促進事業はモデル事業であり、3年間の助成である。**

開設の場所を考慮！

挑戦していくには、資金が少ないならば設置場所は、経費がかからず、人がいづもくる場所＝**公の場でなお恵まれた立地条件を求めよ**。横須賀では、市役所1階の市民サービス窓口に隣接する市民が常に来庁する恵まれた立地条件を得ることができました。スペースが3坪弱と狭いのが少々残念ではありますが…。

関係者の連携を考慮！

障害者は、就労A型事業所だとか就労B型事業所だろうが地域作業所であろうが、障害者の人間関係で進むべき方向を考え、仲間づくりから安心感を得ています。

その安心感や安定感があって、なお外での挑戦を望んでいます。

自分の事業所のみで考えず、障害者の力や希望を伸ばすために、関係機関の連携が必要で、どんなに大きな事業所も地域の関係者と共に事業を行なうメリットを知り、また小規模な地域作業所は、もっと協働していくことで更に障害者の希望に応えられることを考える時代ではないのでしょうか。1事業所では、多様な希望に応えられないのだから…。

現在、小規模事業所、社会福祉法人施設あわせて約40箇所が参加しています。

また、関係者会を持ちニーズ等の幅広く意見を寄せ集めよ！

多彩なアイデアや関係者以外とのコラボレーションを考慮！

現在進行形

1 商品開発

…売れ筋商品開発、季節のある品ぞろえ、製品の組み合わせ商品の開発

2 市各部局が行事及び記念品の発注、除草作業等（役務）の職域開発

3 NPOなどと**コラボレーションを考慮よ**。

4 コーディネーター職員雇用の確保の解決に向けて関係者等の協働

* 役員の努力だけでは無理なこともあり、コーディネーター職員は必要です。